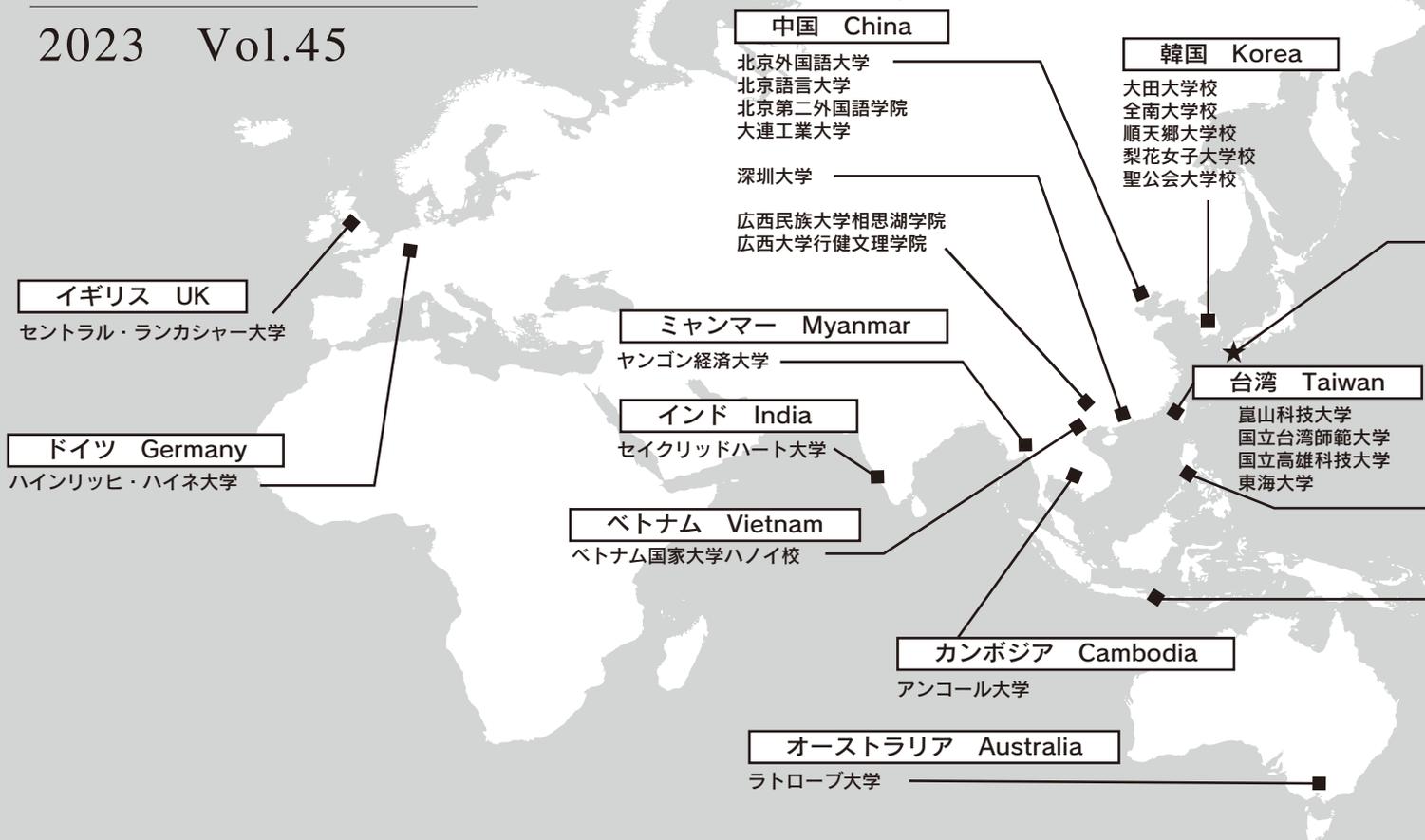


国際交流レター

International Exchange Letter

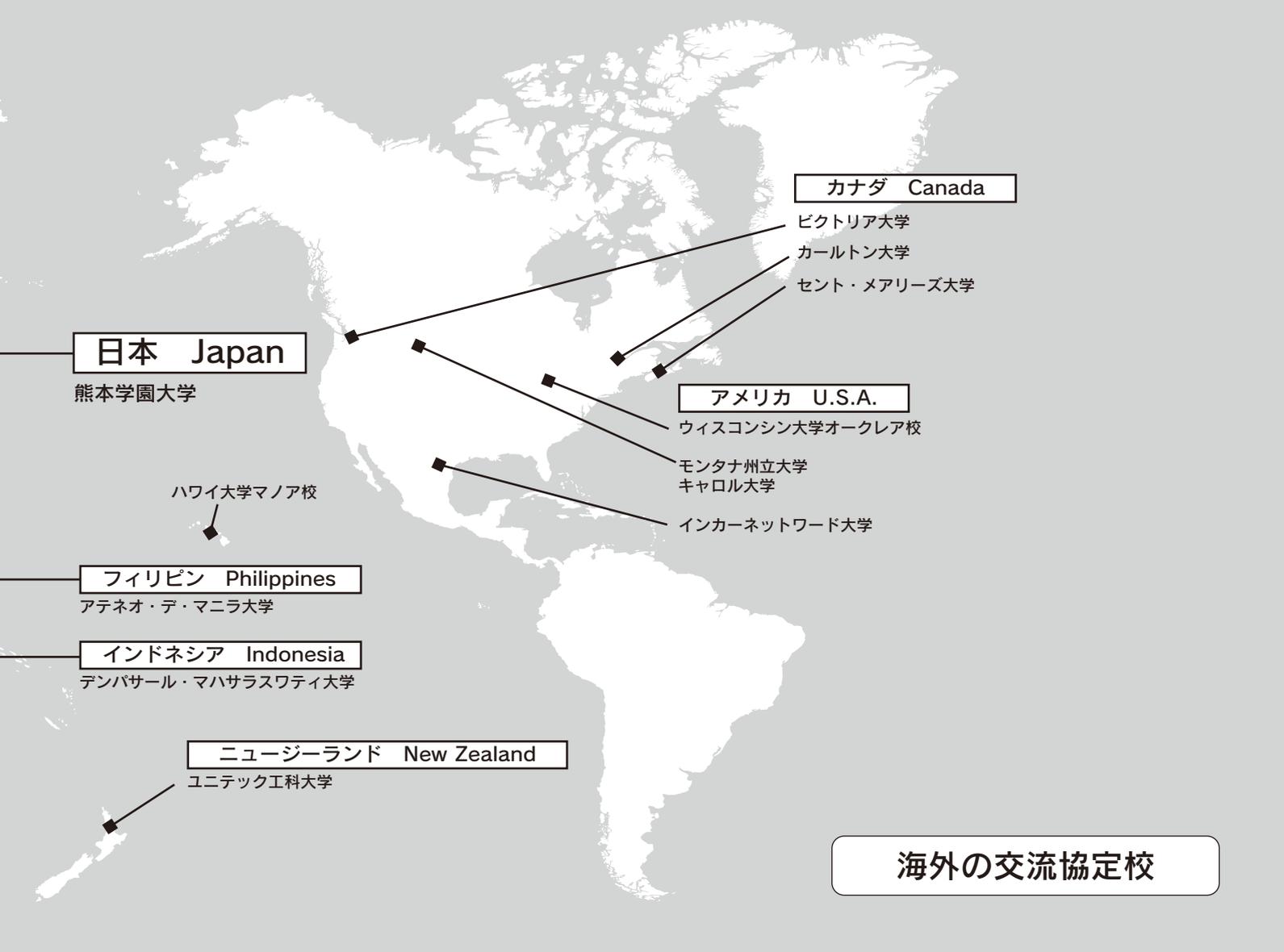
2023 vol.45





目次

巻頭言	学長 細江守紀	2
	国際交流委員長 浪本浩志	3
TOPICS	第33回外国人留学生弁論大会	4
	海外姉妹大学からの学園創立80周年記念式典・祝賀会への参列	
	中国・深圳大学創立40周年記念式典を訪問しました	5
	第8回サマープログラムを4年ぶりに実施しました	
交換教員	新協定校紹介 セイクリッドハート大学 (インド)	6
	海外協定校訪問 (報告)	
交換教員	米岡 ジュリ (令和5年度 交換教員派遣 韓国・大田大学校)	7
	尹 景兒 (令和5年度 交換教員受入 韓国・大田大学校)	8
	劉 志山 (令和5年度 交換教員受入 中国・深圳大学)	9
	彭 勃 (令和5年度 交換教員受入 中国・深圳大学)	10
交換留学体験記	豊田 亮介 (英米学科4年)	11
	江崎 駿 (経済学科4年)	
	川嶋 郁思 (英米学科4年)	12
	上田 愛歌 (商学科4年)	



海外の交流協定校

交換留学体験記

永原 花梨菜	(東アジア学科 4年)	13
沈 秀彬	(東アジア学科 2年)	

張 家豪	(社会福祉学科 3年)	14
Do Ngoc Mai	(福祉環境学科 3年)	

Schoen, Allyssa	(ホスピタリティ・マネジメント学科 2年)	15
林 妍君	(ホスピタリティ・マネジメント学科 4年)	

国際交流の窓

譚 穎蓓	(ホスピタリティ・マネジメント学科 1年)	16
王 昊森	(福祉環境学科 2年)	

Photo Gallery

DATA

令和 5 (2023) 年 海外往来実績	17
----------------------	----

令和 5 (2023) 年度 オンライン留学サロンの実績	18
令和 5 (2023) 年度 研修団往来	

令和 5 (2023) 年度 海外への派遣学生数	19
令和 5 (2023) 年度 出身国・地域別外国人留学生数	
令和 5 (2023) 年度 留学生の主な参加行事	
国際交流委員会メンバー (令和 4 (2022) 年 4月～令和 6 (2024) 年 3月)	
国際教育課スタッフ (令和 5 (2023) 年 4月～)	



KGU Law and Economics Workshop の開催

学長 ほそえ もりき 細江 守紀

昨年（2023年）12月9日に韓国の慶熙大学校（Kyung Hee University）のJeong-Yoo Kim教授をお迎えしてKGU Law and Economics Workshopを熊本学園大学において開催しました。Jeong-Yoo Kim教授とはAsian Law and Economics Association（AsLEA）の発足（Singapore）以来の知己であり、とくに台北の中央研究院（Academia Sinica）で開催された、AsLEA第2回大会での報告論文についての議論や学会事務の意見交換などを通じて親しくなり、その後、いくつかの国際学会で学術交流をしています。Kim教授は、現在『Asian Journal of Law and Economics』の編集長を務められています。

このワークショップではKim教授以外に、転売に対する一般人の態度と、経済学者や法学者の考えとの乖離について日本におけるサーベイ実験を用いた分析をした熊本大学の森大輔先生の報告があり、さらに、裁判における裁判官のインセンティブや行動原理を明示化した訴訟モデルを導入して、裁判での弁護士活動の特徴を分析した熊本大学の池田康之先生と私の共同報告がなされました。

とくに、Kim教授は“Shill advertising”という論文を報告されました。英語がある程度わかる方でも「Shill」ってなんだろうと思われるのではないのでしょうか。これは“おとり”とか“さくら”という、消費者を装って商品の良さを吹聴し、一般消費者の商品の購買意欲を不正にそそること、あるいはその役割をもつ人のことです。さくらは、露天商や的屋などの売り子と結託して客の中に入り込み、冷やかしたり、率先して商品を買ったり、わざと高値で買ったりするような仕込み客のことも使われます（ウィキペディアより）。現代風にいえば、SNSやYouTubeなどで多くのフォロワーや視聴者を抱えているインフルエンサーに広告を依頼し、広告と明示しないで感想などのメッセージを発信させることで、ステルス広告（ステマ）とも言われます。この行為はもちろん、消費者の合理的な購買判断を誤らせる可能性が高いが、日本ではなんの罰則もなく、ステマ天国といわれていましたが、2023年10月から景品表示法上違

法となり、依頼した業者は罰せられることになりました。Kim教授の報告は、低品質の業者がこうしたステマを使う可能性が高いことなど、ステマの機能と規制についての経済分析を行った大変タイムリーなものでした。

一番議論のなかで盛り上がったのは、“さくら”は韓国語で同様の意味で発音されるということが分かったことでした。日本と韓国の古代からのつながりを想起する事例として興味深いものでした。ただし、熊本で馬肉を意味する“さくら”は韓国では使わないということでした。

ワークショップが終了し、Kim夫妻と一緒に復興途上の熊本城周辺を散策し、楽しい一日を過ごすことができました。奥様も一緒にペンシルベニア大学（University of Pennsylvania）に留学されていたので英語が堪能であったことに感心し、また、偶然にも奥様のご尊父様と祖母君が熊本市内に住んでおられたことをお聞きしてびっくりしました。

なお、本学からは小葉先生、米田先生、熊谷先生が参加され、熊本大学の先生方以外では南山大学、九州大学、久留米大学の先生方も出席されました。また、秘書室の川邊さんにも語学研修ということで出席していただきました。Kim教授の報告に対する我々との討論のなかで、共同研究の可能性ができました。近いうちにそれが実現することを期待しています。



ワークショップに参加された皆さんと



大学間交流協定の今

国際交流委員長 なみもと ひろし
浪本 浩志

本学と大学間交流協定を締結している協定校は2024年1月現在、34を数える。古くは、1980年代前半に協定が結ばれ、多くの協定が更新を重ねて現在に至っている。協定が更新される際は、以前の協定内容がそのまま踏襲されることもある一方で、双方または片方から協定内容の変更が要求され、変更点について調整や交渉が行われることも珍しくない。近年、特に英語圏の協定校から従来の内容を抜本的に修正することを求められるケースが増えてきている。

従来の交流協定は、相互主義に基づく簡素な内容（基本的な交流の趣旨・内容や期間等）であったが、現在は企業間で結ばれる国際契約に近い内容のものが現れている。特に目を引くのが、法的な意味合いを持つ規定がいくつか盛り込まれている点である。その代表として、交流の中で何らかのトラブルが発生した際にどの国の法律を適用してそのトラブルを処理するかを決める「準拠法」に関する規定やトラブルの際にどの裁判所を指定するかをあらかじめ合意する「裁判管轄」に関する規定がある。これらの規定が、相互主義的な発想で規定されていればいいのであるが、先方にとって都合がいい内容で設定されている場合がある。たとえば、本学とA国所在の大学との間の交流協定の場合、準拠法はA国法で、裁判はA国X州裁判所を第一審裁判所とするといった具合である。また、これらの規定を一律的なフォーマットとして、世界中の協定校に求めると説明されるのもよくあることである。

このように交流協定の中に法的な意味合いを持つ規定を設ける理由はいくつか考えられそうであるが、一つの理由として考えられるのが協定校の拡大・多地域化にともなうリサーチコストの削減や不確実性の低減ではないだろうか。膨大な協定校を抱える大学にとって、相手先大学の国内ルールが自国の法慣習と異なるケースもあるはずで、

その度にその国の法制度を考えながら協定締結を検討するよりも自国のルール、裁判管轄をあらかじめ自大学にとって馴染みがある、あるいは有利な内容で合意しておくメリットは大きいと言えそうである。

理由はともあれ、このような問題に対してどのような対応が考えられるだろうか。交渉事であるため、基本的には相互主義に基づく内容となるよう粘り強く要請する他ないと言えないが、完全に相互主義的な内容に至らないまでも一方的な内容を是正するためのある種「妥協的な」提案はいくつか考えられそうではある（ただし、この提案でも先方の大学が難色を示す場合があり、加えて提案する大学学内でも受け入れられるか議論がありそうである）。この分野については企業間の国際契約実務による蓄積があり、これを参考にごく簡単に「妥協的な」対応策の例に触れておこう。

ひとつの方策として考えられるのが、多段階紛争処理制度の導入があげられる。公式の裁判（や仲裁）が始まる前段階に大学当局同士で交渉する一定の期間（最低数ヶ月程度）を直列的に設け、その間にトラブルを解決することを目指す方式である。次に、より重要性の高い「裁判管轄」について、先方大学の所在地から第三国、あるいは先方の国内の主要都市に裁判管轄を移すことを提案する方法があるようだ。この際、提案する都市の弁護士資格保有者へのアクセスが容易であることが望ましいと思われる。

大学間交流協定は、一定の年月（5年程度）が経過すると更新の機会が訪れる。また新規協定校と交流を始めるにあたって先方から提示される協定案に上記内容が含まれることもある。大学間の国際交流を進める上で、今後も折に触れて生じうる課題として継続的に対応策を検討する必要があるといえるだろう。



第33回外国人留学生弁論大会

6月14日(水)に外国人留学生弁論大会を開催しました。この大会は、外国人留学生の日本語運用能力の向上と、日本人との相互理解を深めることを目的としたもので、出場者たちは自国と日本の文化の違いや、留学生活のなかで感じたことなどについて日本語で発表を行いました。今回は、中国、韓国、台湾、ベトナム、アメリカ、ドイツの6カ国・地域からの外国人留学生9名が出場しました。大会には、一般市民の方、在学生及び教職員など約50名の観客が集まりました。

最優秀賞を受賞したドイツからの留学生ペッチ ゾエさんは高校時代に初めて体験した日本でのホームステイについて発表し、ホストファミリーと過ごしたかけがえのない生活が今の熊本での留学のきっかけとなったと熱く語りました。

優秀賞とオーディエンス賞をダブル受賞した中国からの留学生チョウ カゴウさんは「熊本に来て出会った桜」と題し、日本に来る前からアニメや本で憧れていた桜を、熊本にきて初めて見た美しさと感動を伝えました。

ベトナムからの留学生ドー ゴック マイさんは「熊本に来て人の温かさに触れたことで、来日前に感じていた不安が消えた。この優しく大切な気持ちに感謝

しながら残りの留学生生活を過ごしていきたい」と語りました。



<後方左から>

上原真幸社会福祉学部講師(審査員)、チョウ カゴウ、キム ミジン、リ シンセン、ヒルヤード ゲージ、浪本浩志国際交流委員長(審査員長)、井川理経済学部講師(審査員)

<前方左から>

ワン ウインジェン、シム スピン、ドー ゴック マイ、コウ ギイ、ペッチ ゾエ、クオンドヒ

受賞者一覧

最優秀賞	社会福祉学部社会福祉学科3年	ペッチ ゾエ	(ドイツ)	ホストファミリーへの感謝
優秀賞	社会福祉学部福祉環境学科3年	ドー ゴック マイ	(ベトナム)	優しさにあふれる熊本
	社会福祉学部社会福祉学科3年	チョウ カゴウ	(中国)	熊本に来て出会った桜
奨励賞	商学部応用文化・マネジメント学科4年	ヒルヤード ゲージ	(米国)	格闘技の魅力
	外国語学部東アジア学科2年	キム ミジン	(韓国)	今を楽しもう
	外国語学部東アジア学科2年	シム スピン	(韓国)	測り難きは人心
	商学部応用文化・マネジメント学科3年	ワン ウインジェン	(台湾)	幸せな日台関係
	商学部応用文化・マネジメント学科3年	リ シンセン	(中国)	私にとっての留学 ～軽舟已に過ぐ万重の山～
	商学部応用文化・マネジメント学科3年	コウ ギイ	(台湾)	台湾と日本を比べて
オーディエンス賞	社会福祉学部社会福祉学科3年	チョウ カゴウ	(中国)	熊本に来て出会った桜

海外姉妹大学からの学園創立80周年記念式典・祝賀会への参列

2022年、学校法人熊本学園は創立80周年を迎え、2023年5月30日に記念式典及び祝賀会を挙行了しました。本学の海外姉妹校である韓国の大田大学から南相豪総長を団長とする訪問団5名と学校法人恵和学園から林用哲理事に参列いただきました。南相豪総長からは、1985年姉妹大学宣言当時の学長、理事長である故 北古賀勝幸先生と故 鱈淵健之先生といった先人への懐古の念と教職員へのこれまでの両大学の交流、協力関係に対し深い謝意が述べられました。また、米国モンタナ州立大学ワデッド・クルザード学長からは祝賀レターが届き、1982年7月姉妹大学提携を締結して以来、教育と研究を通じより良い世界を創造するという共通の使命のため培われてきた両大学の協力と関係の発展を称え、貴重な関係の継続を望むメッセージが届きました。また、中国深圳大学の李清泉党公務委員会主任(前学長)からは、祝賀ビデオが寄せられ、1987年12月姉妹大学の締結以来、両大学の共同の努力により、学術交流、教職員・学生の交換プログラムが順調に進展してきたことと今後の成果への

期待が述べられ、最後に「宏図大展、桃李滿天下」の言葉が贈られました。



<左より> ミンビョンフン、キムナヨン、秋岡 廣宣、イム ヨン Chol、目黒 純一、ナム サンホ、細江 守紀、キム ヨング、ユンギョニア、ファン Cholホン

(敬称略)

中国・深圳大学創立 40 周年記念式典を訪問しました

本学の海外交流協定校において中国の深圳大学とは 1987 年 12 月 19 日に姉妹大学提携に調印し、交換教員及び交換留学生の相互派遣、また研修団の派遣など交流を続けてきました。深圳大学は、1983 年、中国広東省深圳市、経済特区に設立された総合大学です。在学生は約 45,000 名を有します。2023 年 9 月 27 日、深圳大学内粤海校区元平体育館を会場に、創立 40 周年記念式典が挙行されました。本学からは金栄緑副学長（経済学部教授）を団長に国際教育課から切通課長と北原係長の 3 名が参列しました。記念式典には、教育部（日本の文部科学省に相当）、広東省政府関係者、中国国内姉妹大学、海外協定校、企業など 100 余名の来賓が招待されたほか、多くの卒業生も出席し全学をあげて盛大に催されました。

大学に 7 つあるレストランでは、創立 40 周年を祝して大学関係者、来賓、全学生、全教職員に対し食事が振舞われました。夕刻からは在 student 及び教職員の出演する「文芸晚会」が 2 時間にわたり上演されました。その後屋外において、キャンパス内のグラウンドから無数のドローンが飛び立ち、お祝いのメッセージや深圳大学のシンボルなどを夜空に描き出し、フィナーレを迎えました。

中国の経済成長を牽引し、未曾有の発展を遂げる経済特区内の総合大学にふさわしい、全中国、全世界に祝賀の様子が伝播する祝典となりました。



夜空を彩るドローンショー

第 8 回サマープログラムを 4 年ぶりに実施しました



マンチェスターへの日帰り旅行後

平成 25 年度より毎年実施しているサマープログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響で令和 2 年度以降派遣を中断していましたが、4 年ぶりに再開されました。今回で第 8 回目となり、8 月 11 日から 9 月 3 日までの 3 週間、11 名の学生が参加しました。

本プログラムは、イギリス・プレストンにある協定校セントラル・ランカシャー大学で夏期休暇中の 3 週間、大学の寮に滞在し、英語を学ぶプログラムです。授業はイギリスの文化やファッションなど毎週身近なテーマに沿って進められていき、プレゼンテーションや授業内小旅行などで実践力を養いました。また週末は自由にイギリス国内の様々な場所を訪れ、色々な文化の違いなどに触れ、熊本では普段体験できないことに挑戦しました。参加した学生からは「日本を離れて生活したことによって今まで気づくことのできなかった日本の良さに気づくことができました」等の感想がありました。

引率レポート 国際教育課 入江 美里

今回 4 年ぶりの実施となり、最初の 8 日間を引率として同行した。コロナ禍で海外経験の無い学生がほとんどということもあってか、渡航前は不安を口にしていたが、現地ではお互い協力しながら様々な困難を乗り越えていく様子を間近で見ることができ、とても嬉しく感じた。引率として現地に同行したことで、プログラム内容だけでなく、周辺環境や交通事情、学生の現地での生活ぶりを把握できたのは、とても良い経験になった。また、普段はメールでやり取りをしていた現地担当者にも会い、情報交換をすることが出来た。今回の引率経験から得た情報を学生に伝え、より多くのサマープログラム派遣につなげていきたい。



セントラル・ランカシャー大学の担当者と
(筆者左から 2 番目)



新協定校紹介：セイクリッドハート大学（インド）

セイクリッドハート大学は、インド南部ケララ州のコーチ市に位置し、1944年にカトリックのカルメル会修道士により創立された長い歴史と伝統を持つ私立大学です。商学、経営学、経済学、社会学、体育学、語学系及びメディア系の文系学科だけでなく、環境学や植物学、化学などの理系の分野も含め、49の学位プログラム（学士課程22、修士課程19、学士・修士の統合課程1、博士後期課程7）を有しています。学生数は、学部生2,881名、大学院生562名、留学生8名を有します。教員数182名、職員数78名。2024年度より、具体的な交流について協議を進めていく予定です。



海外協定校訪問（報告）：台湾出張報告

日程：令和6年3月3日（日）～3月9日（土）

訪問校・施設：国立高雄科技大学、東海大学、国立陽明交通大学など
訪問を終えて：

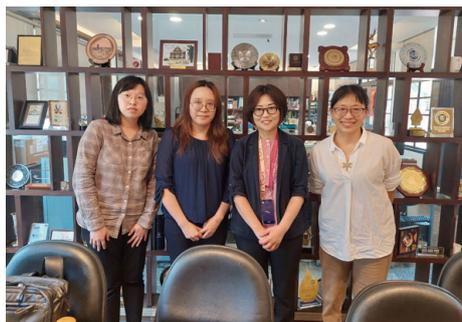
令和6年度は、学生研修団を台湾に派遣し、台湾の大学生との交流や台湾の文化に触れる研修を計画している。今回の出張は、研修団の派遣を実現させるため、派遣予定の協定校との打ち合わせ及び現地視察が目的だった。

高雄市の国立高雄科技大学では、国際センターの呉静思さん、日本語学科の陳志坪先生をはじめとする皆さんと研修団に関する計画について研修団の日程、研修内容、小旅行の具体的な案の紹介を受けた。国立高雄科技大学とは、令和元年の協定締結後、コロナ禍を経て令和5年度から実質的な往来が始まった。高雄からの交換留学生の受入れは令和6年3月で6名になるが、本学からの高雄への派遣は未だなく、この機会に本学を紹介することはもちろん、現地の受入れ状況について教えて詳しく紹介を受けた。

台中市の東海大学は、文学部と本学の外国語学部とが令和6年3月に学部間協定を締結予定（出張当時）である。今後の学生交流について、派遣・受入れの実務を担当する立場から現地の様子を確認した。教室棟や宿舍などは台湾の伝統的な建築様式である三合院型の建物で、キャンパスは緑に囲まれ、多くの学生たちが行き交っていて、活気を感じた。また文学部及び中国語センターでのカリキュラムが充実していることも確認できた。さらに留学生向けの文化体験プログラムやフィールドワークなどの国際交流イベントも多様に用意されていて、充実した台湾留学ができると期待の持てる内容であった。



国立高雄科技大学日本語学科の
担当者と国際センターの皆さんと



東海大学文学部の担当者と
国際センターの皆さんと（筆者右から2番目）



新竹市においては、TSMC 台積創新館を訪問し、専門ガイドの案内により半導体部品に関する紹介と会社の沿革や創設者に関するを中心として説明を受けた。熊本工場が世界展開のなかの第22、第23の工場であることも紹介された。国立陽明交通大学では、日本語科目担当の上條純恵先生を通じて日本語サークルの活動に参加させてもらった。昨年10月に、本学の日本語教員養成課程の教育実習生を受け入れていただいた皆さんで、その日は日本語ディベート大会の準備に忙しくされていた。それぞれに医学や工学など自分の専門を持っていながら、日本語学習の意欲が高く、彼らの姿に感動した。令和6年8月に研修で福岡に来る予定があり、1日程度で熊本を訪問し本学の学生との交流を希望されているとのことで、本学での受入れを調整したいと思う。

今回の台湾訪問の成果は、各大学の現地担当者によって話をすることができ、大学の宿舍や周辺の様子を直に見ることができたこと、また今後の交流について率直に意見交換ができたことだと思う。また台湾の人たちとの触れ合いの中で、何を尋ねても丁寧に返してくれる親切さや責任感、またどんな要求にもまずは応えようとするサービス精神旺盛なところに気づかされると同時に、仕事を進めるスピード感とビジネス意識も高く、今後の業務の中でも私自身もそのことを意識していく必要があると認識させられた。今後大学として本学学生に対して、台湾の学生たちとの交流活動や台湾文化に関する学びの機会を増やすにはどうすべきか、国内外の動きにもアンテナを張り、プログラムとして提供できるように進めていこうと強く感じた。

（国際教育課 北原かおり）

大田大学校での交換教員生活のハイライト:Daejeon「0時祝祭」の体験談

外国語学部教授 ^{よね おか} 米岡ジュリ

【令和5年2月～8月 交換教員として韓国・大田大学校へ派遣】

2023年2月24日～8月25日、韓国の大田大学校での交換教員生活を送った。大学での生活、現地学生に教えて、韓国語学習と研究、二つの学会発表、国立博物館めぐりなど、とても充実した時を過ごすことができた。その中でも、8月11日～17日に、「0時祝祭」という大田市の祭が特に素晴らしい思い出となった。その体験について紹介する。

Daejeon「0時祝祭」の第一テーマ「時間」に沿って、大田駅から旧忠清南道庁舎（現在は近代史博物館）までの大通りを遮断して、「過去、現在、未来」の空間をそれぞれ、町にあった区分に設けられた。「過去」は大田駅から大橋まで、伝統市場の位置する地域であった。懐メロやDJ、ディスコなどの催しが、特に50代以上の市民を楽しませた。「現在」は橋から有名なパン屋のサムシンダンまでで、企業や大学のブースもあり、3つの方向から見えるメインステージが設けてあった。「未来」は、新地下鉄の路線とこれからのLRTを含む、これからの大田市の計画を紹介していた。「未来」地域の終わりに巨大の黄色いKumdori（大田市で開催されたExpo'93のマスコット）が日帝時代1932年に建てられた旧忠清南道庁舎の前に置かれたことは不思議に思ったが、これからの日本との明るい共存を象徴していることも感じた。

第二テーマは「音楽」といってもいい。祭のテーマソングは、1956年に作成された「テジョンブルース」のRemixバージョンがどこからも流れて、大田市の活気溢れる近代史と期待いっぱいの将来像にぴったりマッチした。複数のステージから様々なジャンルの音楽が流れ、メインイベントは何と言っても毎晩9時以降メインステージで開かれた有名な歌手のミニコンサートであった。次のラインアップである。

8/11 Kim Bum-soo

8/12 Apink, fromis-9, etc.

8/13 ULALA SESSION

8/14 Ailee

8/15 Forestella

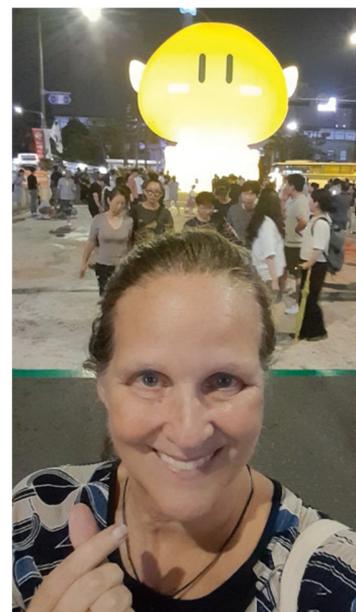
8/16 Yunjeong Jang

8/17 KOYOTE

私は8月12日以外は全部行って見ました。知らないアーティストばかりであったが、ジャンルのバラエティーに富んだ、それぞれ素晴らしいステージであった。特に11日のクラシックポップ

Kim Bum-soo のポゴシプタ (I miss you)、15日の男性SATBカルテットForestella、17日の国民アイドルトリオKOYOTEは印象的であったが、12日の若者に大人気のApinkとfromis-9のステージは、本学からの留学生を含む日本人学生達にとってもっとも楽しかったようだった。

11日の0時過ぎ、この学生達に偶然出会って、最後のバスがなくなっていたので一緒に大学方面に歩いて帰った。途中での韓国独特のプリクラショップで記念写真を撮り、文字通り「0時」祝祭の思い出となった。一緒に撮ってくれた学生の皆さん、カムサハムニダ！派遣してくれた熊本学園大学の皆様、受け入れてくれた大田大学校の皆様、カムサハムニダ！そして一週間楽しませてくれた大田市、カムサハムニダ！





熊本でのひととき

大田大学校 ^{ユン}尹 ^{ギョソ}景 ^ア兒

【令和5年3月～令和6年2月 韓国・交換教員】

くまもと에서의 시간

윤경아

이제 구마모토에서의 생활을 정리할 때가 다가오고 있다. 구마모토에 도착하기 전 낯선 곳에서 생활해야 한다는 불안감으로 여러 가지 걱정이 앞섰다. 그러나 이러한 걱정은 구마모토 학원대학의 따뜻한 환영과 밀착 지원으로 눈 녹듯이 사라지고, 이곳에서 나의 역할을 큰 어려움 없이 진행할 수 있었다. 또한 일본의 노인복지시설과 문화적 자산을 살펴보는 시간도 갖게 되었다.

교환교수로서 나의 주요한 역할 중 하나는 한국어 수업을 진행하는 것이었다. 교직원들을 상으로 학기당 7회의 한국어 수업을 하였다. 수업에는 한국어 및 한국문화에 관심이 있는 교직원들이 참여하였다. 1학기에는 한글의 자음과 모음, 간단한 인사를 중심으로 수업을 진행하였고, 2학기에는 기초 회화를 중심으로 수업을 이어 나갔다. 시간이 짧아 한국어 수업에서 많은 내용을 다루기 어려웠지만 수업에 참가한 교직원들이 한국의 드라마나 음악을 접해 본 경우가 많아 한국어를 공부하고자 하는 열의가 높은 편이었다. 한국어 및 한국문화에 한 발짝 더 다가가는 수업이 되었길 바란다.

학교의 다양한 행사에도 참여하였다. 국제교육과에서 주관한 행사로 '구마모토 시내 및 아소산을 등반하는 Day trips', '유학생들의 본국 대학 소개 행사', '일본어 말하기 대회' 등에 참여하면서 대전대학교는 물론 여러 나라의 유학생들과도 교류하는 기회를 가졌다. 아래 사진은 11월 아소5악 중의 하나인 杵島岳 등반 때의 사진이다. 나카다케를 바라보며 불의 나라에 왔음을 실감한 한때였다. 또 學校 法人 熊本學園 창립 80주년 행사에도 참여하게 되었다. 구마모토학원대학의 설립배경과 취지, 그리고 현재의 성장을 넘어 더 발전된 미래로 나아가고자 하는 학교 구성원들의 진심을 느낀 의미있는 행사였다. 행사에 대전대학교 축하 사절단이 함께 해서 더욱 뜻깊게 느껴졌다.

나의 전공과 관련하여서는 일본의 노인복지시설들을 방문하고 노인복지 전문가들을 만나게 되었다. 최고령국인 일본의 노인복지 현황과 다양한 노인시설을 살펴보기 위해 구마모토, 오무타, 후쿠오카 시의 시설을 방문하고 전문가들을 만났다. 한국 통계청의 2023년 고령자 통계에 의하면 한국 65세 이상 노인인구 비율은 18.4%로 노인인구 비율이 30% 가까이 되는 일본보다 낮다. 하지만 한국은 고령인구의 증가 속도가 빨라서 고령화 관련 문제에 대한 대책을 마련할 시간이 많지 않다. 이러한 점에서 세계 최고령 국가인 일본의 경험을 살펴보는 것이 의미가 있었다. 일본 노인복지시설 방문 및 전문가 인터뷰를 통해 한국의 고령자 주거 문제에 대한 함의를 생각해 보게 되었다.

끝으로 2024년 1월에 구마모토학원대학의 사회복지연구소와 대전시의 사회복지관협회가 공동으로 세미나를 개최할 수 있게 된 것도 뜻깊은 일이다. 양국 사회복지실현현장에 대해 서로 이해하고 소통과 교류의 장을 만들어 가는 기회가 되기를 기대한다.

ことができた。

交換教員としての私の主な役割の一つは、韓国語の授業を行うことだった。教職員を対象に、1学期に7回の韓国語の授業を行った。授業には韓国語や韓国文化に関心のある教職員が参加した。1学期はハングルの子音と母音、簡単な挨拶を中心に授業を行い、2学期は基礎会話を中心に授業を進めた。時間が短いため、韓国語の授業で多くの内容を扱うことは難しかったが、授業に参加した教職員の多くが韓国のドラマや音楽に触れたことがあり、韓国語学習への熱意は高かった。韓国語や韓国文化に一步近づける授業になったのではないだろうか。

ここで生活しながら、大学の様々な行事に参加した。国際教育課が主催する行事では「熊本市内散策及び阿蘇登山のDay trips」、留学生による母国や母校を紹介する「留学生歓迎会」、留学生の日本語による「外国人日本語弁論大会」などに参加し、大田大学校はもちろん、様々な国の留学生と交流する機会を持った。写真は11月に阿蘇五岳の一つである杵島岳に登った時の写真である。中岳を眺めながら、火の国に来たことを実感したひとときだった。また、学校法人熊本学園創立80周年記念式典にも参加し、熊本学園大学設立の背景と趣旨、そして現在の成長を超え、より発展した未来へ進んでいこうという学生、教職員の真心を感じる有意義な行事だった。大田大学校の祝賀訪問団がこの式典に参加したことで、より意義深いものとなった。

私の専門に関しては、日本の高齢者福祉施設を訪問し、高齢者福祉の専門家に出会うことができた。最高齢国である日本の高齢者福祉の現状と様々な高齢者施設を見るために、熊本、大分および福岡の各施設を訪問し、専門家を尋ねた。韓国統計庁の2023年高齢者統計によると、韓国の65歳以上の高齢者人口比率は18.4%で、高齢者人口比率が30%にせまる日本よりも低い。しかし、韓国は高齢人口の増加速度が速いことから、高齢化関連問題に対する対策を講じる時間があまりない。このような点で、世界最高齢国である日本の経験を参考とすることは意味があった。日本の高齢者福祉施設訪問及び専門家へのインタビューを通じて、韓国の高齢者住宅問題に対する含意を考えることができた。

最後に、2024年1月に熊本学園大学付属社会福祉研究所と大田市の社会福祉館協会が共催でセミナーを開催することになった。共催でセミナーを開催できるようになったことも重要な意義を持つものである。日韓両国の社会福祉の実践の現場について互いに理解し、コミュニケーションと交流の場を作っていく契機になることを期待している。



杵島岳山頂にて

いよいよ熊本での生活を整理する時期が近づいてきた。熊本に到着する前は、見知らぬ土地で生活することへの不安から様々な心配が先行していた。しかし、熊本学園大学の温かい歓迎と親身なサポートにより、その心配は消え、熊本での私の仕事を順調に進めることができた。また、日本の高齢者福祉施設や文化財を見る機会を持つ

熊本の印象

深圳大学 リウ 劉 シ 志 サン 山

【令和5年3月～8月 中国・交換教員】

熊本印象

劉 志 山

2023年3月6日至8月31日、我受深圳大学委派，到熊本学園大学做交換学者。在熊本工作半年，感触良多。印象最深的是熊本の文明、和谐、安全、干净。

熊本是一个文明的城市。市民说话很文明，在公共场合不会大声喧哗和争吵，甚至接听电话都很小声；举止很文明，办事排队，没有拥挤和加塞，井然有序。

熊本是一个和谐的城市。市民待人友善，对待问路的人很热心；工作人员办事公道，对市民很客气；服务人员很耐心，让客人感觉宾至如归。

熊本是一个安全的城市。尽管街头很少看见警察，身上随时带着现金，但在熊本生活的半年时间里，我从来没有碰到过小偷、扒手，更没有遇到打架现象，也没有听到凶杀案件；外出旅行时，随身行李放在路边的亭子里，不用担心被别人拿走。居家、出门都很安全。

熊本是一个干净的城市。熊本の垃圾分类非常科学，市民恪守垃圾分类规则和投放要求，除了固定的垃圾投放地，大街小巷看不到垃圾。更难能可贵的是，市民出行随身携带垃圾袋，把果皮、纸屑、饮料盒等废弃物物品装进垃圾袋中，带回家处理，确保公共场合干净整洁。

熊本给我留下了难忘的美好的印象。我爱熊本！

2023年12月10日

2023年3月6日から8月31日まで、私は深圳大学の交換教員として熊本学園大学を訪問した。熊本で過ごした半年間を思うと、感慨無量である。最も印象深いものは、熊本が文明的で調和的で安全で清潔であったことである。

熊本は文明的な都市である。熊本の人々の話しぶりはとても礼儀正しく、公共の場所において大きな声で喧嘩したり言い争ったりしているのを見たことがなく、電話に出る際には小さな声で話をするほどである。あらゆることに礼儀正しさがあり、何事にも列を守って並ぶ。混雑も渋滞もなく、いつも秩序整然としていた。

熊本は調和的な都市である。熊本の人々は、人に対して親切で、道を聞く人に対してとても温か

い。働く人は皆、仕事を公正に処理し、相手に対してとても丁寧である。お店のスタッフは、我慢強さがあり、お客に対して安心と満足を与えてくれた。

熊本は安全な都市である。街中で警察を見かける事は滅多になかった。いつも現金を持っていたが、熊本で生活をした半年間に私は泥棒にもスリにも出くわしたことはないし、ましてや殴り合いの喧嘩の場に遭遇したこともなく、殺人事件について聞くこともなかった。旅行先で、手荷物を道端の東屋に置いても誰かに持って行かれる心配をする必要がなく、家にいても外出してもとても安全であった。

熊本は清潔な都市である。熊本のゴミの分類は非常に科学的である。熊本の人々は、ゴミの分類やゴミの出し方のルールを遵守する。決められたゴミ捨て場を除いては、街のあらゆるところでゴミが散らかっているのを見るのがなかった。最も素晴らしいと感じたのは、人々が外出時にゴミ袋を携帯することである。果物の皮や紙屑、飲料容器などのゴミを携帯したゴミ袋に入れ、家に持ち帰って処理をするのだ。公共の場の美しさはこのように確保されているのだ。

これらは全て熊本が私に残した忘れ難い美しい印象である。私は熊本が大好きである。



南阿蘇にて



人生の楽しみを AI が代替できるもんか

深圳大学 ^{ホウ} 彭 ^{ボツ} 勃

【令和5年9月～令和6年2月 中国・交換教員】

学術講演会において、私は「中国のインターネット裁判所と手続のIT化」について報告した。その話の中で、中国ではすでにAIによる裁判が始まっていると説明すると、受講者からは期待より心配や不安を抱く方が少なくないようだ。

いまや、対話を通じた文章や画像が素早く自動生成する人工知能(AI)をよく耳にするようになった。すでに名門大学の入試で合格するレベルの答えを書ける水準になっている。AIの本質は自動化にして省力化です。すなわち人間の脳が行っている知的な作業をコンピューターで模倣したソフトウェアやシステムが、人間の使う自然言語を理解し、論理的な推論を行い、経験から学習するのだ。AIの応用例としては、講演会で説明した裁判以外、翻訳を自動的に行うこと、画像や音声の意味を理解するなどがあつた。

これまで人間が自力でやってきたことをAIによって外部化されるわけだ。昔から、技術という言葉は人力の外部化という意味を持っているように思う。例えば、電気を使えばテレビ番組を見ることができし、蒸気機関を使えば人間が持ち上げられないほど重たいものをやすやすと持ち上げてくれる。車を使えば、人間や馬よりもはるかに速いスピードで移動できた。その結果、人間ができないことができるようになった。技術の進歩と言うのはそういうものです。

外部化された結果、それまで技術なしに人間がやってきたことよりもパフォーマンスが向上することに技術進歩の本来の動機と目的があります。工学の観点から考えれば、AIはあくまで「道具」にすぎないのだ。そしてこの文脈では、巷で話題になるAIの暴走といった心配は基本的に不要だ。なぜなら、技術の方向性は研究者によって制御できるものだから。

事務的な文章作成や顧客対応のチャットといった領域ではAIはこれ以上ないほど便利です。入試問題を解くのも得意中の得意。数学や物理など正解が一元的な良し悪し基準がある事項では、人間はAIとは勝負になりません。しかし、だからといって人間に完全に代替するとか、人間社会の敵になるわけでもない。道具は使い物であつて、競合するものではないのだ。

技術への外部化は人間を楽にしてくれます。しかし、外部化は価値を持つのはその活動や仕事の利用者にとって楽しくない、やりたくない、できないと言うことが前提になります。例えば、駐車違反とされた人たちに対し、不服申し立てが可能かどうかを判断してくれる。日本では、これまでにAIサービスを利用して25万件の不服申し立てが行われ、16万件で勝訴(成功率は64%)した。つまり、AIが得意なのは「判断」することだ。大量のデータがあれば、そのデータを元に条件節を徹底的に洗い出し、その判断の精度は人間を超える可能性がある。言い換えると、「判断」に十分なデータが無ければ、どんなAIも有効には機能しない。

私は研究者として、考えことを言語化し文章に書くことを仕事にしている。AIに核となるアイデアだけ入力し、何ステップかの対話をすれば、即座に文章に

してくれる時代はもうそこまで来ている。それでも、私は書く仕事をAIに外部化したくありません。書くプロセスこそが仕事の喜びだから。これまでのコンピューターは、過去の学識者の論文を保存することができた。そして、我々はそれを検索することができた。しかし、AIの時代となり、コンピューターは読み込んだ論文を元に我々の目的に合致するものを提案し、しかも確度を持って教えてくれる。過去の偉人の論文を参照し、学会や研究会でのコミュニケーションを通じて思考を深化させていくというこれまでのスタイルから、AIとのコミュニケーションを通じて新しい価値を紡ぎ出していくような、新しいスタイルが求められるようになった。

文章を書くというプロセスをAIに任せれば、何のために文章を書いているのか分からなくなるでしょう。文章を書く仕事で私はAIに負ける気がしません。なぜならば、本当に優れた文章は思考と言語化のプロセスそのものを無常の喜びとする人柄が出てくるからだ。

技術は日進月歩ですから、そのうちもっと立派な文章を生成できるAIが出現するでしょう。でも、視点を変えれば、技術が進歩するほど、人はAIに依存するようになる。書くことや自ら判断するプロセスの喜びを知らない人が増えてくるでしょう。それは、恐ろしいことだと思う。優秀な研究者や思想家はより高度な研究や理論ができるようになり、そうでない者との差がより広がるのではないか。テクノロジーが進化して道具が変化していく以上、道具を使う我々も、道具とのコミュニケーションのあり方を見つめ直していかなければならない。

「唯一生き残るのは、変化できる者」チャールズ・ダーウィンの言葉は今でも当てはまるように思う。

2023年12月22日水前寺宿舎にて



京都・永観堂にて



異なる視点から見えてくる新しい社会と自分

外国語学部英米学科 4年 **とよだ しょうすけ** **豊田 亮介**

【令和5年9月～令和6年5月
英国・セントラル・ランカシャー大学へ交換留学】

留学に来て数ヶ月、様々な体験や実際に見る、感じることを通して私の中では今まで凝り固まっていた考え方や感じ方、理解できていると思っていたことが大きく変わる経験を何度もしています。もちろんネガティブな経験も多いですが、日本から離れなければ、知らなかったことがそういった経験から多くあります。

私は日本の街中において持病のためぐったりされていた方を介抱した経験があるのですが、その際携帯で倒れている人を撮影してそのまま去った若い人や、見て見ぬふりをする人を見てとてもやるせない気持ちになったことがあります。しかし、イギリスでは電車の中でも、道端でもお互いに助け合う姿を多く目にします。満員の電車で降りる人のために周りの人たちが声を掛け合って、道を開け最後には Have a nice day でお別れする光景をよく見かけます。社会の違いとはこうしたところから見えてきて、自分の中でも新しい考えが諸種に広がります。これまでは自分の取るべき行動に自信がなく、迷うことも多くありました。しかし、社会の違いを知ることができ、自信を得ることができていると考えています。

ファッションや音楽が好きで、イギリスという国に行ってみたいと思ったのが私の留学の始まりですが、私の中では現在、文化と現代の流行について俯瞰的な見方ができ、多様性の大切さを改めて実感しています。社会や文化について凝り固まっていたことが多かったと思う

のですが、自分の思うままに自分が感じたままに自分のできることを行動することが大事であることを再確認しました。言葉だけではない経験や考え方、新しい見え方をこれからも身につけたいです。



マンチェスターにてお気に入りのバンドライブ



フラットメイトのボクシングの試合を見に行った時

留学から得たこと

経済学部経済学科 4年 **えざき しゅん** **江崎 駿**

【令和5年2月～11月
オーストラリア・ラトロブ大学へ交換留学】

私はこの留学を通して得たものがたくさんあります。私がオーストラリア留学という挑戦をした理由は英語が話せるようになるというのは前提として自分のやりたいことを見つけるためでした。留学体験記などで価値観が変わったという感想をよく見かけますが、私は留学で見聞が広がったように思います。それにより自

分は何がやりたいのか、自分の能力を生かせるのは何かをつかむことが出来ました。オーストラリアでは運良く多くの友達を作ることが出来たのですが、オーストラリアは多文化国家で、30ヶ国程のたくさんの国の友達と交流を持つことでそれだけ違う価値観に触れることが出来ました。私にとって、戦争はあまりなじみがないため、友達から話を聞くことや、日本では味わえないような経験が出来たことは一番の思い出で、これは自分にとって大きな財産になったと思います。

この留学により挑戦することでしか得られないものがあるのだと確信しました。多くの友達はみんな日本に来ると言ってくれました。そういう縁はかけがえないものだと思うので大切にしていきたいです。



グレートオーシャンロードにて（筆者は中央）



大学内の施設でバスケットを楽しむ



視野が大きく広がった 1 年間

外国語学部英米学科 4 年 ^{かわしま} ^{いくし}
川嶋 郁思

【令和 5 年 2 月～ 12 月
ニュージーランド・クライストチャーチ工科大学へ交換留学】

私はニュージーランドのクライストチャーチ工科大学に約 1 年間留学し、初めの 5 ヶ月間は語学学校に通い、後半の 5 ヶ月間はホスピタリティコースで学びました。

私の日本での専攻は英語と教育ですが、もう 2 度と経験することができないであろう 1 年間の留学生活では、自分が今までやってきたことに捉われず、新しいことをしようと考えていたため、より実践的な英語を学ぶことができるホスピタリティコースを履修しました。その分野では全く経験も知識もない状態だったので、5 ヶ月間ずっと苦労しましたが、バリスタ、バーテンダー、ウェイターという日本では学ぶ機会がなかったものを英語で修了することができました。これを通して自信がただけではなく、この経験を活かして海外で生活をすることもできるという、大きな選択肢を得たような気持ちになりました。

この 1 年間で得た経験や人との繋がりは、自分を成長させただけでなく、今後の人生のための大きな財産になったと感じています。これからは、同じような経験を多くの人に共有できるように努力していきます。



ホストファミリー達とお別れ会



テカボ湖

たくさんの学びを得た留学生活

商学部商学科 4 年 ^{うえだ} ^{あいか}
上田 愛歌

【令和 5 年 3 月～ 12 月 韓国・大田大学校へ交換留学】

私は 2023 年の 2 月から約 1 年間韓国の大田大学校に留学しました。留学で得たことはたくさんありますが、一番は恥ずかしがらず行動することの大切さです。私は韓国語にとっても興味があり、より深く学びたくて留学をしました。ですが、韓国に行って授業を受けるだけなら日本で学ぶのと大して変わらないと感じました。そのため、韓国でしかできないことをしようと心がけました。まず韓国人と積極的に交流し友達を作ることです。やはり韓国人と話すことが韓国語を鍛える一番の方法だと思います。分からない韓国語はすぐに韓国人の友達に質問して解決していました。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」を座右の銘にして何でも質問しました。また、お互いの国の文化の違いについて話すのもとても楽しかったです。文化の違いが言語に現れているなど常々感じました。そして学校のイベントにも進んで参加しました。体育祭・文化祭はとてもいい

思い出になりました。8 月の熊本学園大学学生訪問団の受け入れでは、その交流会に通訳として日本人一人で参加し、それまで学んだ韓国語をたくさん活用できて楽しかったです。来年もきっと行われるのでぜひ参加してみてください！行動することによって、思い出と成長の多いとてもいい留学になりました！



8 月の熊本学園大学・大田大学校の 2 泊 3 日の交流会

新たな世界への第一歩

外国語学部東アジア学科 4年 ^{ながほら} 永原 ^{かりな} 花梨葉

【令和5年2月～令和6年1月】

中国・深圳大学へ交換留学】

私は中国の深圳大学に留学しました。留学当初は、異文化の違いや意思疎通の難しさに幾度となく戸惑い、



中国人と韓国人の友達と BBQ (筆者は左)

不安や寂しさから眠れず涙を流す日々を過ごしました。一度日本から飛び出せば、街中現地の言葉が飛び交い、標識や看板でさえ日本語を目にする事はありません。見るもの全てが180度違う世界です。慣れない環境に戸惑いを覚えながらも諦めずに一歩ずつ困難を乗り越えていくことで10ヶ月経過した頃には中国の友達のもと

り留学中の諸外国の友達と中国語を通して会話し、交流を日々楽しんでます。また長期休暇を利用して同じ留学仲間と香港や北京などを訪れ、深圳とは異なる都市の雰囲気や文化を味わうことが出来ました。

最後に留学を通して視野が広がることはもちろん考え方や価値観まで変わりました。物事を聞いただけで判断するのではなく、「百聞は一見に如かず」という諺があるとおりに、自身の目で直接見て判断する力を得ることが出来たと感じています。



留学仲間と深圳のお店で食事 (筆者は後列中央)

日本での経験から得たこと

外国語学部東アジア学科 2年 ^{シム} 沈 ^{スピン} 秀彬

【令和5年4月～令和6年3月】

韓国・大田大学校からの交換留学生】

大学に入学してからずっと家族と離れて過ごしていた私は、新しい環境でも簡単に適応できると思っていましたが、やはり海外はそうではありませんでした。新しい世界で1年間暮らすことがワクワクして楽しみでしたが、簡単ではありませんでした。

一度はバスに乗って降りるときにミスをしました。紙幣を入れて出てきた小銭をそのまま全部持って降りて、運転手さんの呼び掛けにすごく戸惑ったことがあります。その時一緒にいた日本人の友達に教えてもらって出てきたのはおつりではなく単に両替されたお金だと知りました。その後は、降りる前に出す硬貨がぴったり合っているか確認する習慣ができました。

足りない日本語の実力でも大きな困難がありました。最初は「うん」としか答えられず会話がうまくいかず、状況説明がまともにできなくて日本人の友達に無礼な人と誤解されることもありました。しかし、いろんな友達と会話をしながら自然に相づちを打つ方法も知り、一緒に遊びながら親交を深めることができました。

些細なミスは私をとっても不安にさせましたが、このようなことを経験し、今の私がいることができました。私が困難を克服できたのは、同じ悩みがあった留学生の友達、友達になって相談してくれた日本人の友達、日本と学校生活に大きく役立った国際教育課があるからだだと思います。だから怖がって後悔するより、留学

に来たことも大きな挑戦だったということをお忘れずに、良い人たちの優しい心と助けを土台に成長していくことが重要だということは留学をしながら一番大きく学んだ点です。



託麻祭でタピオカミルクティーの販売 (筆者は前列中央)



連休に行ったグリーンランド (筆者は2列目左側)



出会いと勇気で歩き出す

社会福祉学部社会福祉学科 3年 ^{チョウ}張 ^{カゴウ}家豪

【令和5年4月～令和6年3月
中国・深圳大学からの交換留学生】

最近の授業で「自分の今年の漢字」というディスカッションがあり、私は「歩」を自分の今年の漢字に選びました。今年の留学経験で、私の中にはいろんな良い変化が起きました。そこで私は自分が「歩き出した」という感じがしました。

だけど熊本にきた最初の1か月間、私は興奮すると同時に、同じくらいの不安も感じました。日本語で会話することがないので、交流は疎か、聞き取りもあまりできませんでした。来日初日にコンビニで「レジ袋はご利用ですか」と聞かれて、意味がわからなくてそのまま店員さんと二人で呆然となった光景は気まずすぎて今でも覚えています。幸いなことに、手を取って日本語を丁寧に教えてくれる先生たちがいて、親切にいろいろ手伝ってくれて、世話をしてくれる国際教育課のスタッフたちがいて、一緒に話したり遊んだり美味しいものを食べたりしてくれる日本の友たちがいる。違う国からきて、個性鮮明で面白い留学生たちがいる。皆のおかげで、私は少しずつ日本語が上手になって、日本の生活を楽しむことができました。それからバイトや一人旅などもできるようになりました。本当にありがたく思っています。



皆と一緒にラウンドワンに行きました
(筆者は3列目右側)

桜が再び咲くまでに

社会福祉学部福祉環境学科 3年 ^{ドー}ゴック ^{マイ}Do Ngoc Mai

【令和5年4月～令和6年3月
ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校からの交換留学生】



阿蘇・杵島岳登山
(筆者は2列目左)

日本に行ったのは3月23日。あの日から、私はたくさん「初めて」をもらえた。飛行機に乗り、日本を自分の目で見るのが胸が高鳴るほど待ち遠しいという「初めて」。風に吹かれて、青空まで舞い上がる桜の花びらの美しさに息を呑むという「初めて」。一日中日本語を使って日本人のみだけでなく、韓国、中国などから来た皆と話すという「初めて」。職員方々、先生、友達、見知らぬ人の温かい優しさに包まれるという「初めて」。。。これらの「初めて」のなかで、

それ以外は、素晴らしい思い出もたくさんできました。春に桜を見ました。淡い桃色の空気の中で熊本城を見回しました。夏に花火大会を楽しみました。晴れの夜空で咲いた火の花とそれらに染まった皆の笑顔に見とれました。秋に皆と杵島岳に登りました。銀色のススキが一面に広がっている山の上に横になってもう少し寝そうになりました。冬に初めて雪を見ました。厚い服四枚着ても寒い阿蘇で、かじかんだ手で人生初のミニ雪だるまを作りました。面白い人たちにも会いました。カードショップに、遊戯王の対戦相手は私が中国人だと知ってからたくさん話しかけてくれて、最後自分が当たった景品も私にくれました。感動しました。宇治にアニメの聖地巡礼に行くとき、大吉山展望台というところで同じアニメが好きなビールを一本持っている知らない男性と一緒に夜景を見ながら2時間くらい雑談しました。楽しかったです。バイト先の先輩が、中国語の「いい仕事」を書いてある飴を私にくれました。どういふことかわからなくて聞いてみたら「お疲れ様です」をGoogleで翻訳したら中国語で「いい仕事」が出たようで面白かったです。振り返ると、この留学経験では本当に数え切れないくらいいい経験ができました。これらは全部私の一生忘れない大切な思い出になりました。

「いい出会いがあれば」と、最初はそのような考え方を持って日本にやってきました。やりたいことを見つけれなくて、将来について悩んでいた私は、そういう導いてくれる出会いを望んでいました。当たり前のことながら、そうしたおとき話のようなものではないですが、これだけのいい出会いがあって、世界の美しさを改めて体感し、自分も成長した気がします。日本に留学に来たことは本当に今までの人生で一番正しい選択でした。したいことはまだはつきり言えませんが、将来のこともまだわからないけど、留学経験からもらった感動と勇気を抱けば、自分はまだまだ先に進めると信じています。



杵島岳の上まで登った私

あることがだんだん日常になって、いつものことと思ってしまう。しかし、「初めて」があったら、「最後」もある。当たり前のことだが、事前に知ってもどこか心が痛む。だから、いまこの場所、ここにいる皆とこの瞬間を大切にしたいと思っている。桜が再び咲くまでに。

追伸：どうか桜が咲くとき、春風が、花びらと共に私の感謝の言葉を皆のもとに運んでくれますように。



キャンパスツアー (筆者は後列左から6番目)



My Exchange Experience

シェイン アリッサ
 商学部ホスピタリティ・マネジメント学科2年 Schoen, Allyssa
 【令和5年9月～令和6年3月
 米国・モンタナ州立大学からの交換留学生】

I have been interested in Japanese culture since I was a kid. My uncle sparked my interest in the culture after returning from Japan and told me about what he did. It has been a dream of mine to come since then and I started to research Japanese on my own as my small hometown didn't have any programs for Japanese culture or language. After I went to college, I learned of a study-abroad program I applied to start learning more about the program. Thanks to this and my Japanese Language teacher I could participate in a virtual exchange with Kumamoto Gakuen University that went well, and I decided that I wanted to go there.

When I arrived in Japan, I quickly found how kind here is because when I was struggling to find my hotel a very kind stranger helped me even though it was very late. Although I didn't know a lot of Japanese they helped me and were very kind. This started my

first month in Japan. Throughout the month I got to have a lot of fun and make so many new friends. Everyone was very kind and helped me learn as much as possible about the culture, language, and the city. I went to many places with my new friends, like Mt. Aso, Aso Shrine, Yamaga, and Fukuoka.

I also got to wear a Kimono for the first time during my first month here. We rented them for the day and went to a fireworks show. It was an amazing display, and I took a lot of photos that day. I got to eat tons of great food from the street vendors as well, some of which I had never eaten before. It also surprised me that everything was so clean even at the end of the day, after the show and the crowds. I love the amount of nature that Kumamoto has, and I spend as much time outside exploring as I can.



コンフォートゾーンから抜け出す

リン ケンクン
 商学部ホスピタリティ・マネジメント学科4年 林 妍君
 【令和5年9月～令和6年3月
 台湾・国立高雄科技大学からの交換留学生】

日本に来る前に、一人で生活したことはなかったです。初めてきた時、なんでも自分でしなければならず、慣れなくて、家に帰りたくてたまらなかったです。しかし、国際教育課の職員のみなさん、そして国際交流会館に住んでいるレジデント・アシスタントと留学生たち、みんな優しく、熊本を案内してくれて、いろいろ助かりました。熊本での生活は思ったより早く慣れました。

日本に来て3ヶ月くらい経ちましたが、最初はあまり日本語を喋る勇気がなかったけど、徐々に自分の考えを言えるようになって、他の人と交流できるようになりました。この3ヶ月間、寮のみなさんと一緒にグリーンランド、台湾祭、山鹿やカラオケに行ったり、阿蘇の杵島岳に登りに行ったりしました。託麻祭の時も留学生チームとしてタピオカミルクティーのブースを出して、日本の大学の学園祭を体験しました。また、日本語のチューターもいつもおいしい料理屋に連れて行ってきて、おしゃべりして、お互いの母語を勉強し合ったことがとても有意義な時間でした。日本に来て、楽しい思い出がたくさんできて、みんなと仲良くなれたことは本当によかったです。

交換留学という旅は長くも短くもなく、この過程で様々な国の人々と出会い、一緒に勉強したり、遊んだり、パーティーをしたりして、寮で一緒に暮らして、温かさを感じられて、まるで大家族のようだと思っています。

私にとって、熊本にいるこの一学期は忘れられない

メモリーです。この期間に出会い助けてくれたすべての人に感謝の気持ちを持っています。残りの交換留学の時間を有効に活用して、みんなと最高の思い出を作りたいです。



グリーンランド（筆者は後列右側）



歓迎会＆バースデーパーティー
 （筆者は前列右側）



積極的に留學生活しましょう

私は商学部ホスピタリティマネジメント学科の1年生タンです。中国からの留学生です。日本に来て1年半ほどになりました。大学に入ったばかりの時、とても緊張して、いろんな心配がありました。例えば、同級生とうまくやっていけないかもしれない、宿題がうまくできないかもしれないなど悲観的に思いました。でも、しばらく一緒に過ごした後、周りの先生もクラスメートもとても親切な方だということが分かって、授業の流れにも慣れてきました。

1年間という長くない期間で、十分楽しい学校生活することができました。一緒に阿蘇山に登ったり、学園祭に参加して、一緒にタピオカミルクティーをつくったりしました。

ホスピタリティ・マネジメント学科を選んだ理由は、中国の大学ではこの学科が珍しいからです。私は日本語学校の先生のアドバイスを受けて、ホスピタリティとおもてなしがどのようなことが詳しく知りたいので、この学科を選びました

譚 穎蓓(タン エイバイ)

商学部ホスピタリティ・マネジメント学科1年(令和5年度入学)

出身校 東方国際日本語学校(熊本県)



熊本学園大学での成長

熊本学園大学福祉環境学科の2年生に転入学しました。ここでの学習体験はとても挑戦的で、日々成長を感じています。熊本に初めて来た時、私は言語と学習の難題に直面しましたが、先生とクラスメートの支援で、だんだん大学生活に慣れてきました。熊本学園大学は環境学と水俣病研究に深い専門的背景を持っています。福祉環境専攻の学習で、水俣市と水俣病資料館を訪問する機会がありました。そこには水俣病に関する歴史資料と写真が大量に収蔵されています。私は水俣病患者から直接経験を聞くことができ、この病気が人類にもたらした長期的な苦痛と影響を深く感じました。また、授業では車椅子の使い方を学ぶこともあり、社会福祉の知識をより広くに理解できるようになりました。課外活動において、実際に応用することもありました。これらの経験は私の専門知識を強化しただけでなく、社会の責任と人文的配慮に対する私の理解を深めました。

王 昊森(オウ コウシン)

社会福祉学部福祉環境学科2年(令和5年度転入学)

出身校 長崎国際大学(長崎県)



Photo Gallery 2023





令和5(2023)年 海外往来実績

月	派遣	受入
1月	■派遣交換留学生の帰国（韓国・大田大学校 [6名]、全南大学校 [1名]）	■台湾・崑山科技大学訪問団来学 [学生 3名、引率 1名] (1/23)
2月	■派遣交換留学生の出発（オーストラリア・ラトロープ大学 [2名]、NZ・クライストチャーチ工科大学 [2名]、中国・深圳大学 [2名]） ■短期認定留学生の出発（NZ・クライストチャーチ工科大学 [6名]、米・ハワイ大学マノア校 [3名]） ■派遣交換教員の帰国（中国・深圳大学 朴哲洙先生） ■派遣交換教員の出発（韓国・大田大学校 米岡ジュリ先生）	■受入れ交換留学生の帰国（カナダ・カールトン大学 [1名]、韓国・大田大学校 [2名]、全南大学校 [1名]、中国・深圳大学 [1名]、北京第二外国語学院 [1名]、ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]、ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名]） ■受入れ交換教員の帰国（中国・深圳大学から馮建民先生 (2/28)）
3月	■派遣交換留学生の出発（韓国・大田大学校 [4名]） ■短期認定留学生の帰国（NZ・クライストチャーチ工科大学 [6名]、米・ハワイ大学マノア校 [3名]）	■受入れ交換教員の来日（中国・深圳大学から劉志山先生 (3/6)、韓国・大田大学校から尹景兒先生 (3/7)） ■受入れ交換留学生の来日（韓国・大田大学校 [4名]、中国・深圳大学 [2名]、北京第二外国語学院 [1名]、台湾・国立高雄科技大学 [2名]、ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]）
4月	■社会福祉学部交換留学生の出発（ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名]） ■外国語学部英米学科長期海外研修・海外インターンシップ出発（カナダ・ビクトリア大学 [1名]）	
5月		■韓国・大田大学校創立 80 周年祝賀訪問団来学 (5/28 ~ 5/31)
6月	■派遣交換留学生の帰国（英・セントラル・ランカシャー大学 [1名]）	
7月	■派遣交換留学生の帰国（カナダ・セント・メアリーズ大学 [1名]、中国・深圳大学 [1名]） ■外国語学部東アジア学科韓国海外研修（韓国・聖公会大大学校 [57名]）(7/30 ~ 8/20)	■台湾・崑山科技大学訪問団来学 [学生 2名、引率 1名] (7/10)
8月	■サマープログラム イギリスコース出発 [11名] (8/11 ~ 9/3) ■外国語学部東アジア学科中国海外研修（台湾・国立台湾師範大学 [17名]）(8/12 ~ 9/2) ■経済学部経済学科国際研修（台湾・香港・マカオ [8名]）(8/28 ~ 9/8) ■外国語学部英米学科長期海外研修・海外インターンシップ帰国（カナダ・ビクトリア大学 [1名]） ■社会福祉学部交換留学生の帰国（ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名]） ■学生自治会及び学翔学会（韓国・大田大学校訪問 [12名]）(8/23 ~ 8/25) ■派遣交換教員の帰国（韓国・大田大学校 米岡ジュリ先生）	■受入れ交換留学生の帰国（米・モンタナ州立大学 [1名]、カナダ・セント・メアリーズ大学 [1名]、英・セントラル・ランカシャー大学 [1名]、オーストラリア・ラトロープ大学 [1名]、台湾・国立高雄科技大学 [2名]、ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名]） ■受入れ交換教員の帰国（中国・深圳大学から劉志山先生 (8/31)）
9月	■派遣交換留学生の出発（英・セントラル・ランカシャー大学 [1名]） ■外国語学部英米学科長期海外研修・海外インターンシップ出発（カナダ・ビクトリア大学 [6名]） ■社会福祉学部海外フィールドワーク（韓国・順天郷大学校 [5名]）(9/11 ~ 9/14) ■中国・深圳大学創立 40 周年記念式典への出席（金栄緑副学長ほか [3名]）(9/26 ~ 9/28)	■受入れ交換教員の来日（中国・深圳大学から彭勃先生 (8/31)） ■受入れ交換留学生の来日（米・モンタナ州立大学 [1名]、中国・広西民族大学相思湖学院 [1名]、台湾・国立高雄科技大学 [2名]）
10月	■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習（台湾・国立陽明交通大学 [5名]）(10/13 ~ 10/20)	
11月	■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習（韓国・大田大学校 [4名]）(11/6 ~ 11/18) ■派遣交換留学生の帰国（オーストラリア・ラトロープ大学 [1名]）	
12月	■派遣交換留学生の帰国（オーストラリア・ラトロープ大学 [1名]、NZ・クライストチャーチ工科大学 [2名]） ■外国語学部英米学科長期海外研修帰国（カナダ・ビクトリア大学 [4名]）	■中国・蘇州科技城外国語学校訪問団来学 [6名] (12/5) ■韓国・順天郷大学校訪問団来学 [学生 20名、引率 2名、通訳 2名] (12/11 ~ 12/13)



令和5(2023)年度 オンライン留学サロンの実績

交流相手大学		使用言語	学期	実施回数	参加者延べ数
中国	北京第二外国語学院	中国語、日本語	秋学期	1回	4名
台湾	東呉大学 ※授業でのサロン実施	英語、日本語	秋学期	2回	12名

令和5(2023)年度 研修団往来

派遣	研修団名	研修期間	期間	研修・派遣先	団員数
	外国語学部東ア(韓国)海外研修	7月30日(土)～8月20日(日)	22日間	韓国・聖公会大学校	学生57名、引率計2名
外国語学部東ア(台湾)海外研修	8月12日(日)～8月24日(土)	22日間	台湾・国立台湾師範大学	学生17名、引率計2名	
サマープログラム	8月11日(金)～9月3日(日)	24日間	英国・セントラル・ランカシャー大学	学生11名、引率1名	
学生自治会及び学翔学会	8月23日(土)～8月25日(月)	3日間	韓国・大田大学校	学生12名、引率3名	
経済学部国際研修(香港・台湾コース)	8月28日(月)～9月8日(金)	12日間	香港、台湾	学生8名、引率1名	
社会福祉学部海外フィールドワーク	9月11日(月)～9月14日(木)	4日間	韓国・順天郷大学校	学生5名、引率5名	
日本語教育実習(台湾コース)	10月13日(金)～10月22日(日)	10日間	台湾・国立陽明交通大学	学生5名、引率1名	
日本語教育実習(韓国コース)	11月6日(月)～11月18日(土)	13日間	韓国・大田大学校	学生4名、引率1名	
外国語学部英米海外研修	2月17日(土)～3月12日(火)	25日間	米国・ベセル大学	学生18名	
経済学部国際インターン実習	2月13日(火)～2月25日(日)	13日間	インドネシア・テンピサル・サラスワティ大学	学生10名、引率計2名	

海外への派遣学生数

	派遣先大学名	令和5(2023)年度				令和4(2022)年度まで						
		交換1年	交換1学期	短期認定 ³⁾	サマーP ²⁾	交換1年	交換1学期	短期交換	短期認定 ³⁾	サマーP ²⁾	HSP ¹⁾	短期派遣
アメリカ	モンタナ州立大学					77						25
	モンタナ大学					21						
	キャロル大学					29						22
	ロッキーマウンテン大学											4
	インカーネットワード大学					35						
	アワーレティオブザレイク大学(熊本市交流事業)					7						
	ウイスコンシン大学オークレア校					10		9				
ハワイ大学マノア校			5					5				
カナダ	セント・メアリーズ大学					36		2				
	カールトン大学					10						
イギリス	リバプールジョンモーズ大学					41		11				91
	アルスター大学					8						19
	セントラル・ランカシャー大学	1			11	8				100		
フランス	リヨン商科大学					2						
	ボワチエ大学					1						
ドイツ	ラインランド・プファルツ州立経済大学											16
オーストラリア	ラトロープ大学	2				31		5			124	
ニュージーランド	ユニテック工科大学					28		8		22	103	14
	クライストチャーチ工科大学	2				1			29			
韓国	大田大学校	4				101	2					
	全南大学校					3	3					
中国語圏	深圳大学	1	1			61						
	中国人民大学					8						
	北京外国語大学					14						
	北京語言大学					11						
	北京第二外国語学院					12						
	広西師範大学(熊本市交流事業)					9						
	崑山科技大学					4						
国立高雄科技大学												
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校					9						
タイ	チュラロンコン大学					4						
	合計	10	1	5	11	581	5	35	34	122	227	191

- ※ 網掛けの協定校は、現在交流を行っていない大学
- ※ 短期派遣留学(2ヶ月派遣)は、平成18年度をもって終了
- ※ 短期交換留学は、令和元年度をもって終了
- ※ 短期語学ホームステイプログラムは、平成24年度をもって終了
- ※ サマープログラム(1ヶ月派遣)は、平成25年度開始
- ※ 短期認定留学は、平成28年度開始

- *1: 短期語学ホームステイプログラム
- *2: サマープログラム
- *3: 短期認定留学



令和5(2023)年度 出身国・地域別外国人留学生数

春学期

令和5(2023)年5月1日現在

国籍 (国・地域名)	学部学生					研究生			大学院生							交換 留学生	合計	
	1	2	3	4 以上	計	学部	院	計	修1	修2 以上	会計専 門職1	会計専 門職2	博1	博2	博3 以上			計
中国	1	2	7	10	20	1		1	5	4		2				11	3	35
韓国				1	1												4	5
台湾																	2	2
ベトナム		1			1												1	2
米国																	1	1
カナダ																	1	1
オーストラリア																	1	1
ポルトガル																	1	1
ドイツ																	1	1
合計	1	3	7	11	22	1	0	1	5	4	0	2	0	0	0	11	15	49

※「留学」の在留資格を持っている学生のみ。

秋学期

令和5(2023)年10月1日現在

国籍 (国・地域名)	学部学生					研究生			大学院生							交換 留学生	合計	
	1	2	3	4 以上	計	学部	院	計	修1	修2 以上	会計専 門職1	会計専 門職2	博1	博2	博3 以上			計
中国	1	2	7	10	20	1		1	5	4		2				11	4	36
韓国				1	1												4	5
台湾					0												2	2
ベトナム		1			1												1	2
米国					0												1	1
合計	1	3	7	11	22	1	0	1	5	4	0	2	0	0	0	11	12	46

※「留学」の在留資格を持っている学生のみ。

令和5(2023)年度 留学生の主な参加行事

名称	主催	内容	期日
留学生ピクニック	熊本学園大学国際教育課	水前寺成趣園と熊本市動植物園散策	4月22日(土)
春の新入留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新入留学生の歓迎会	4月26日(水)
ウェルカムパーティー春	大学コンソーシアム熊本	新入留学生との交流会	6月10日(土)
第33回外国人留学生弁論大会	熊本学園大学国際交流委員会	本学留学生の日本語による弁論大会	6月14日(水)
第2回コラボカフェ台湾	熊本市国際交流会館	台湾の若者文化をテーマに紹介	6月24日(土)
第46回火の国まつりおもてやん総おどり	大学コンソーシアム熊本	大学コンソーシアム熊本・留学生チームとして参加	8月5日(土)
秋の新入留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新入留学生の歓迎会	10月12日(木)
秋の留学生バスハイク	熊本学園大学国際教育課	阿蘇・杵島岳登山	11月1日(水)
第56回託麻祭	熊本学園大学託麻祭実行委員会	留学生チームとしてタピオカミルクティーの模擬店を出店	11月3日(金) 11月4日(土)
留学生ショートムービーコンテスト	大学コンソーシアム熊本	熊本留学の魅力 PR する映像作品のコンテスト	11月10日(金)~ 11月30日(木)
スタディツアー in 水俣	大学コンソーシアム熊本	水俣への日帰りバスツアー	12月16日(土)
第3回図書館トークイベント 「台湾 知りたい そんなあなたに」	熊本学園大学附属図書館	留学生による自国のコンビニ事情の紹介	12月21日(木)
附属高校生との国際交流	熊本学園大学附属高校国際交流クラブ	書き初め、折り紙などでの交流	1月16日(火)
第38回熊本春節祝賀会	熊本県日中協会	中国人留学生と協会員との交流	2月16日(金)

国際交流委員会メンバー

(令和4(2022)年4月~令和6(2024)年3月)

委員長	浪本 浩志
商学部	石貫 文子
経済学部	佐藤 加寿子
外国語学部	ディビッド・オストマン
社会福祉学部	上原 真幸
大学院	宅間 文夫
国際教育課	切通 しのぶ

国際教育課スタッフ

(令和5(2023)年4月~)

課長	切通 しのぶ
係長	北原 かおり
	入江 美里
	松尾 友美子(~令和5(2023)年8月まで)
	樋口 絢郁
	野口 宏美(令和5(2023)年11月~)
国際交流会館	原 伸一(~令和6(2024)年3月まで)



〒862-8680 熊本市中央区大江2丁目5番1号
TEL 096-364-5161(代)
FAX 096-372-4112
<https://www.kumagaku.ac.jp/international>

【 国際教育課 】



大学サイト



Instagram

学校法人 熊本学園

熊本学園大学・大学院 | 熊本学園大学付属高等学校
熊本学園大学付属中学校 | 熊本学園大学付属敬愛幼稚園

熊本学園大学 国際交流レター 2023 vol.45
編集・発行 熊本学園大学国際教育課
発行日 令和6(2024)年3月